

科学コミュニケーション活動の評価における苦勞と苦惱

～オーストラリアにおける在外研究からの土産話～

2011年5月27日（金） 18:00-20:00

「評価は大事、けど難しい・・・」こう思っている人は多いのではないのでしょうか。少なくとも、僕がオーストラリアでの在外研究中に出会った人たちは口を揃えてそう言っていました。とはいえ、何もできない訳ではありません。たった2ヶ月の在外研究でしたが、いくつか面白そうな土産話を仕入れてきました。簡単な土産話の後、「科学コミュニケーション活動の評価における苦勞と苦惱」をみんなで共有したいと思います。最終的には、明るく締めくくりたいです。（ゲストより）

ゲスト 加納 圭

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 科学コミュニケーショングループ

湯川秀樹先生へのあこがれ（学部）、寿命の研究（修士）、予備校講師（修士+ 博士）、一家に1枚ヒトゲノムマップ（博士）を経て「科学コミュニケーション」の世界にたどり着きました。今は、専門家が専門外の人たちとエンゲージしていく過程に興味津々です。

2011年2月1日～3月31日の2ヶ月間、オーストラリア国立大学・科学意識向上センターにて「科学コミュニケーション活動の評価」をテーマに在外研究を行っていました。

会場 京都大学 吉田泉殿

*京町家風の建物です。

*普通の家のように見えるので、通り過ぎないようにご注意ください。

*入り口に「京都大学吉田泉殿」という看板がかかっています。

定員 25名程度

*当日参加も可能です！

*お申し込みをいただいた方には、リマインダーをお送ります。

持ち物 （おなががすく時間なので）

夕ご飯をご持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志 水町 衣里（京都大学）



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/gHhER0>